

VMware Identity Manager 2.8 への アップグレード

VMware Identity Manager 2.8

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) にあります

VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2016 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

VMware Identity Manager 2.8 へのアップグレード	5
1 VMware Identity Manager 2.8 へのアップグレードについて	7
クラスタのアップグレード	8
アップグレード前のRabbitMQサーバの準備	8
2 VMware Identity Manager のオンライン アップグレード	11
オンライン アップグレードの前提条件	11
VMware Identity Manager をオンラインでアップグレードできるかどうかをチェックする	12
VMware Identity Manager アプライアンスのプロキシサーバ設定を構成する	12
オンライン アップグレードの実行	12
3 VMware Identity Manager のオフライン アップグレード	15
オフライン アップグレードの前提条件	15
オフライン アップグレード向けにローカル Web サーバを準備する	15
アプライアンスを構成してオフライン アップグレードを実行する	16
4 アップグレード後の設定	19
5 アップグレード エラーのトラブルシューティング	21
アップグレード エラー ログの確認	21
VMware Identity Manager のスナップショットへのロールバック	21
ログ ファイルバンドルの収集	22
6 RabbitMQ の問題のトラブルシューティング	23
インデックス	25

VMware Identity Manager 2.8 へのアップグレード

『VMware Identity Manager 2.8 へのアップグレード』では、VMware Identity Manager バージョン 2.6 から 2.8 へのアップグレード方法について説明します。

バージョン 2.8 の新規インストールを希望する場合は、『VMware Identity Manager のインストールと構成』を参照してください。新規にインストールすると、既存の構成は保持されないことに注意してください。

アップグレードした VMware Identity Manager インスタンスの使用方法については、『VMware Identity Manager 管理者ガイド』を参照してください。

対象者

本書は、VMware Identity Manager をインストール、アップグレード、および構成するユーザーを対象としています。また、仮想マシン技術に精通した経験のある Windows または Linux システム管理者を想定しています。

VMware の技術ドキュメントの用語集

VMware の技術ドキュメントには、新しい用語などを集約した用語集があります。当社の技術ドキュメントで使用される用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。

VMware Identity Manager 2.8 へのアップグレードについて

1

次のアップグレード パスおよびアップグレード シナリオがサポートされています。

サポートされているアップグレード パス

次のアップグレード パスがサポートされています。

- バージョン 2.6 以降から 2.8

インターネット接続

VMware Identity Manager は、オンラインまたはオフラインでアップグレードできます。

デフォルトでは、VMware Identity Manager アプライアンスは VMware Web サイトを使用してアップグレード手順を実行します。そのため、アプライアンスにはインターネット接続が必要です。また、アプライアンスでプロキシ サーバ設定を行う必要があります（該当する場合）。

仮想アプライアンスにインターネット接続を設定していない場合は、オフラインでアップグレードを実行できます。オフラインでアップグレードするには、My VMware からアップグレード パッケージをダウンロードし、アップグレード ファイルをホストするようにローカル Web サーバをセットアップします。

アップグレード シナリオ

- 単一の VMware Identity Manager アプライアンスを展開している場合、[第 2 章「VMware Identity Manager のオンラインアップグレード \(P. 11\)」](#)または[第 3 章「VMware Identity Manager のオフラインアップグレード \(P. 15\)」](#)の説明に従ってオンラインまたはオフラインでアップグレードします。

注意 アップグレード中はすべてのサービスが停止するので、ダウンタイムが発生することが予想されます。ダウンタイムに応じて適切にアップグレードのタイミングを計画してください。

- フェイルオーバーまたは高可用性の目的でクラスタに複数の VMware Identity Manager 仮想アプライアンスを展開している場合は、[「クラスタのアップグレード \(P. 8\)」](#)を参照してください。
- マルチデータセンターを導入している環境で、ダウンタイムを発生させずに VMware Identity Manager をアップグレードするには、[「VMware Identity Manager のインストールと構成」](#)の「ダウンタイムを発生させずに VMware Identity Manager をアップグレードする」を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [クラスタのアップグレード \(P. 8\)](#)
- [アップグレード前の RabbitMQ サーバの準備 \(P. 8\)](#)

クラスタのアップグレード

フェイルオーバーまたは高可用性の目的でクラスタ内に複数の VMware Identity Manager 仮想アプライアンスを展開している場合、一度に 1 つずつノードをアップグレードすることができます。アップグレードのタイミングは、アップグレード中に発生するダウンタイムを考慮して計画してください。

[「アップグレード前の RabbitMQ サーバの準備 \(P. 8\)」](#) も参照してください。

手順

- 1 データベースと VMware Identity Manager ノードのスナップショットを取得します。
- 2 1 つを残してすべてのノードをロード バランサから削除します。
- 3 ロード バランサに接続されているノードをアップグレードします。

[第 2 章「VMware Identity Manager のオンライン アップグレード \(P. 11\)」](#) または [第 3 章「VMware Identity Manager のオフライン アップグレード \(P. 15\)」](#) で説明されている、オンラインまたはオフラインのアップグレードプロセスに従います。

重要 アップグレードのプロセスではダウンタイムが発生することを考慮してください。

- 4 ノードをアップグレードした後、ロード バランサに接続したままにしておきます。
これによって、他のノードのアップグレード中でも VMware Identity Manager サービスが利用可能になります。
- 5 他のノードを一度に 1 つずつアップグレードします。
- 6 ノードがすべてアップグレードされたら、ロード バランサに再度追加します。

アップグレード前の RabbitMQ サーバの準備

クラスタ内で複数の VMware Identity Manager 仮想アプライアンスを展開した場合は、すべてのノードの RabbitMQ クラスタを停止し、それから VMware Identity Manager アプライアンスをアップグレードする必要があります。

RabbitMQ ノードは起動したときと逆の順序で停止する必要があります。これによってマスター ノードの順序が維持されます。起動順序を決めるには、各サーバの `/db/rabbitmq/data/*/nodes_running_at_shutdown` ファイルを確認します。まず、すべてのノードをリストする RabbitMQ ノードをシャットダウンします。たとえば、`node1`、`node2`、`node3` として起動した 3 つのノードがある場合、ノード 3 の `nodes_running_at_shutdown` ファイルには `node1,node2,node3` とリストされます。ノード 2 には `node1,node2` とリストします。ノード 1 には `node1` とリストします。ノード 3、ノード 2、ノード 1 の順番でシャットダウンします。

手順

- 1 クラスタの各 VMware Identity Manager アプライアンスの RabbitMQ ノードを停止します。`rabbitmqctl stop` と入力します。
続行する前に、クラスタの各 RabbitMQ ノードに対してこれを実行します。
- 2 RabbitMQ がクラスタから切断されていることを確認します。`rabbitmqctl cluster_status` と入力します。
- 3 最初のノードをアップグレードします。[第 2 章「VMware Identity Manager のオンライン アップグレード \(P. 11\)」](#) または [第 3 章「VMware Identity Manager のオフライン アップグレード \(P. 15\)」](#) のいずれかのアップグレード手順を参照してください。

VMware Identity Manager アプライアンスが起動します。

4 各ノードについて手順 2 ~ 4 を実行します。

各ノードがアップグレードされたら、アップグレードされたノード上で `rabbitmqctl cluster_status` コマンドを実行し、これまでアップグレードされたすべてのノードが出力の `running_nodes` セクションにリストされていることを確認します。ノード 1 のアップグレード後は、`running_nodes` セクションには `node1` のみがリストされます。ノード 2 のアップグレード後に、両方のノードで `rabbitmqctl cluster_status` コマンドを実行すると、`running_nodes` セクションには `node1` と `node2` がリストされます。これは、RabbitMQ のノードが正しくクラスタリングされていることを示します。

すべてのノードがアップグレードされると、正しい順序の RabbitMQ ノードがクラスタを構成します。

VMware Identity Manager のオンラインアップグレード

2

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスは、オンラインでアップグレードできます。オンライン アップグレードを行うには、仮想アプライアンスがインターネットに接続する必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [オンライン アップグレードの前提条件 \(P. 11\)](#)
- [VMware Identity Manager をオンラインでアップグレードできるかどうかをチェックする \(P. 12\)](#)
- [VMware Identity Manager アプライアンスのプロキシ サーバ設定を構成する \(P. 12\)](#)
- [オンライン アップグレードの実行 \(P. 12\)](#)

オンライン アップグレードの前提条件

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスをオンラインでアップグレードする前に、前提条件となる次のタスクを実行します。

- 仮想アプライアンスのプライマリ ルートパーティションで利用可能なディスク容量が 2.5 GB 以上あることを確認します。
- バックアップのために仮想アプライアンスのスナップショットを取得します。スナップショットの取得方法の詳細については、vSphere のドキュメントを参照してください。
- 外部データベースを使用している場合は、そのデータベースのスナップショットまたはバックアップを取得します。
- VMware Identity Manager が適切に構成されていることを確認します。
- 仮想アプライアンスが、HTTP を介してポート 80 で [vapp-updates.vmware.com](#) を解決してアクセスできることを確認します。
- アウトバウンドの HTTP アクセスのために HTTP プロキシ サーバが必要な場合は、仮想アプライアンスのプロキシ サーバ設定を構成します。[「VMware Identity Manager アプライアンスのプロキシ サーバ設定を構成する \(P. 12\)」](#)を参照してください。
- VMware Identity Manager のアップグレードが存在することを確認します。適切なコマンドを実行して、アップグレードを確認します。[「VMware Identity Manager をオンラインでアップグレードできるかどうかをチェックする \(P. 12\)」](#)を参照してください。

VMware Identity Manager をオンラインでアップグレードできるかどうかをチェックする

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスがインターネットに接続できる場合は、アプライアンスからオンラインでアップグレードできるかどうかを確認できます。

手順

- 1 仮想アプライアンスに root ユーザーとしてログインします。
- 2 次のコマンドを実行して、オンラインのアップグレードを確認します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn check
```

VMware Identity Manager アプライアンスのプロキシ サーバ設定を構成する

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスは、VMware のアップデート サーバにインターネットでアクセスします。HTTP プロキシを使用するインターネット アクセスをネットワーク構成で指定している場合は、アプライアンスのプロキシ設定を調整する必要があります。

インターネットトラフィックのみを処理するプロキシを有効にします。プロキシが正しく設定されていることを確認するために、ドメイン内の内部トラフィック用のパラメータを **no-proxy** に設定します。

注意 認証が必要なプロキシ サーバはサポートされません。

開始する前に

- 仮想アプライアンスの root パスワードを確認します。
- プロキシ サーバ情報があることを確認します。認証が必要なプロキシ サーバはサポートされないことに注意してください。

手順

- 1 VMware Identity Manager 仮想アプライアンスに root ユーザーとしてログインします。
- 2 コマンドラインに YaST と入力して YaST ユーティリティを実行します。
- 3 左の表示枠ペインで [ネットワーク サービス] を選択してから、[プロキシ] を選択します。
- 4 [HTTP プロキシ URL] フィールドと [HTTPS プロキシ URL] フィールドにプロキシ サーバの URL を入力します。
- 5 [終了] を選択して YaST ユーティリティを終了します。
- 6 VMware Identity Manager 仮想アプライアンスで Tomcat サーバを再起動して新しいプロキシ設定を使用します。

```
service horizon-workspace restart
```

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスで VMware のアップデート サーバを利用できるようになりました。

オンライン アップグレードの実行

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスでインターネット接続が可能な場合は、アプライアンスをオンラインでアップグレードできます。

開始する前に

- [「オンライン アップグレードの前提条件 \(P. 11\)」](#) にリストされている前提条件を満たしていることを確認してください。
- 仮想アプライアンスがパワーオンされていること、そして機能していることを確認。

手順

1 VMware Identity Manager 仮想アプライアンスに root ユーザーとしてログインします。

2 次の `updatemgr.hzn` コマンドを実行します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn updateinstaller
```

3 次のコマンドを実行して、オンラインのアップグレードが存在することを確認します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn check
```

4 次のコマンドを実行して、アプライアンスを更新します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn update
```

アップグレード中に発生したメッセージは、`update.log` ファイル (`/opt/vmware/var/log/update.log`) に保存されます。

5 もう一度 `updatemgr.hzn check` コマンドを実行して、より新しいアップデートがないことを確認します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn check
```

6 アップグレードしたアプライアンスのバージョンを確認します。

```
vamicli version --appliance
```

新しいバージョンが表示されます。

7 仮想アプライアンスを再起動します。

```
reboot
```

アップグレードは完了です。

仮想アプライアンスが起動した後、15～20分間は管理コンソールの検索とオートコンプリート機能を利用できないことに注意してください。バージョン 2.7 では、検索インデックスは VMware Identity Manager アプライアンスに組み込まれた検索と解析エンジンである Elasticsearch に移動されました。移行プロセスが完了するには、仮想アプライアンスの起動後 15～20分かかる場合があります。

また、検索とオートコンプリート機能を有効にするには、監査が無効化されていないことが必要です。監査の設定は [カタログ] - [設定] - [監査] ページで確認することができます。

VMware Identity Manager のオフラインアップグレード

3

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスのアップグレード時にインターネットに接続できない場合は、オフラインアップグレードを実行できます。ローカル Web サーバにアップグレードリポジトリをセットアップして、アプライアンスがローカル Web サーバを使用してアップグレードするように構成する必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [オフラインアップグレードの前提条件 \(P. 15\)](#)
- [オフラインアップグレード向けにローカル Web サーバを準備する \(P. 15\)](#)
- [アプライアンスを構成してオフラインアップグレードを実行する \(P. 16\)](#)

オフラインアップグレードの前提条件

VMware Identity Manager 仮想アプライアンスをオフラインでアップグレードする前に、前提条件となる次のタスクを実行します。

- 仮想アプライアンスのプライマリ ルートパーティションで利用可能なディスク容量が 2.5 GB 以上あることを確認します。
- バックアップのために仮想アプライアンスのスナップショットを取得します。スナップショットの取得方法の詳細については、vSphere のドキュメントを参照してください。
- 外部データベースを使用している場合は、そのデータベースのスナップショットまたはバックアップを取得します。
- VMware Identity Manager が適切に構成されていることを確認します。
- VMware Identity Manager のアップグレードが存在することを確認します。My VMware サイト (my.vmware.com) でアップグレードを確認します。
- アップグレードファイルをホストするようにローカルの Web サーバを準備します。[「オフラインアップグレード向けにローカル Web サーバを準備する \(P. 15\)」](#) を参照してください。

オフラインアップグレード向けにローカル Web サーバを準備する

オフラインアップグレードを開始する前に、VMware Identity Manager 仮想アプライアンスのサブディレクトリを含むディレクトリ構造を作成して、ローカルの Web サーバをセットアップします。

開始する前に

- `identity-manager-2.8.<x>` を入手します。<x>--<buildNumber>-updaterepo.zip ファイルを取得します。my.vmware.com にアクセスし、VMware Identity Manager の製品ダウンロード ページに移動し、ファイルをダウンロードします。
- IIS Web サーバを使用する場合は、ファイル名に特殊文字を利用できるように Web サーバを構成します。これを構成するには、[フィルタリングを要求] セクションで [ダブル エスケープを許可] オプションを選択します。

手順

- 1 Web サーバの `http://<YourWebServer>/<VM>/` にディレクトリを作成して、ダウンロードした zip ファイルをコピーします。
- 2 Web サーバに `.sig (text/plain)` および `.sha256 (text/plain)` の MIME タイプが含まれていることを確認します。これらの MIME タイプが含まれない場合、Web サーバの更新確認は失敗します。

- 3 zip ファイルを展開します。

zip ファイルから抽出された内容は、`http://<YourWebServer>/<VM>/` に配置されます。

ファイルから抽出された内容には、サブディレクトリの `/manifest` と `/package-pool` が含まれます。

- 4 次の `updatelocal.hzn` コマンドを実行して、URL に有効なアップデート コンテンツが含まれていることを確認します。

```
/usr/local/horizon/update/updatelocal.hzn checkurl http://<YourWebServer>/<VM>
```

アプライアンスを構成してオフライン アップグレードを実行する

オフライン アップグレードを実行するには、ローカルの Web サーバを参照するように VMware Identity Manager アプライアンスを構成します。その後にアプライアンスをアップグレードします。

開始する前に

[「オフライン アップグレード向けにローカル Web サーバを準備する \(P. 15\)」](#)。

手順

- 1 VMware Identity Manager アプライアンスに root ユーザーとしてログインします。
- 2 次のコマンドを実行して、ローカルの Web サーバを使用するアップグレード リポジトリを構成します。

```
/usr/local/horizon/update/updatelocal.hzn seturl http://<YourWebServer>/<VM>/
```

注意 構成を元に戻してオンライン アップグレードの機能を回復するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/local/horizon/update/updatelocal.hzn setdefault
```

- 3 アップグレードを実行します。

- a 次の `updatemgr.hzn` コマンドを実行します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn updateinstaller
```

- b 次のコマンドを実行します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn update
```

アップグレード中に発生したメッセージは、`update.log` ファイル (`/opt/vmware/var/log/update.log`) に保存されます。

- c もう一度 `updatemgr.hzn check` コマンドを実行して、より新しいアップデートがないことを確認します。

```
/usr/local/horizon/update/updatemgr.hzn check
```


- d アップグレードしたアプライアンスのバージョンを確認します。

```
vamicli version --appliance
```

このコマンドは新しいバージョンを表示します。

- e 仮想アプライアンスを再起動します。

たとえば、コマンドラインで次のコマンドを実行します。

```
reboot
```

アップグレードは完了です。

仮想アプライアンスが起動した後、15～20分間は管理コンソールの検索とオートコンプリート機能を利用できないことに注意してください。バージョン2.7では、検索インデックスはVMware Identity Manager アプライアンスに組み込まれた検索と解析エンジンであるElasticsearchに移動されました。移行プロセスが完了するには、仮想アプライアンスの起動後15～20分かかる場合があります。

また、検索とオートコンプリート機能を有効にするには、監査が無効化されていないことが必要です。監査の設定は[カタログ] - [設定] - [監査] ページで確認することができます。

アップグレード後の設定

VMware Identity Manager 2.8 にアップグレードした後は、次の設定を行います。

- フェイルオーバーのための VMware Identity Manager クラスタを設定している場合は、3 ノード構成に更新することを推奨します。これは、VMware Identity Manager アプライアンスに組み込まれた検索と解析エンジンである Elasticsearch の制限によるものです。2 つのノードをそのまま使用することもできますが、Elasticsearch に関連するいくつかの制限に注意してください。詳細については、『VMware Identity Manager のインストールと構成』の「フェイルオーバーと冗長性の構成」を参照してください。
- 新しいポータルユーザー インターフェイスを有効にします。
 - a 管理コンソールで、[カタログ] タブの矢印をクリックして、[設定] を選択します。
 - b 左ペインで [新しいエンドユーザー ポータル UI] を選択して、[新しいポータル UI を有効化] をクリックします。
- VMware Identity Manager 2.8 では、トランスポート レイヤ セキュリティ (TLS) プロトコル 1.0 はデフォルトで無効になります。TLS 1.1 と 1.2 がサポートされます。

TLS 1.0 が無効になっているときは外部の製品の問題が発生することが知られています。TLS 1.1 または 1.2 を使用するようにその他の製品の構成を更新することを推奨します。ただし、Horizon、Horizon Air、Citrix またはロード バランサなどの製品のバージョンが TLS 1.0 に依存している場合は、[ナレッジベースの記事 2144805](#) の指示に従って、アップグレード後に VMware Identity Manager で TLS 1.0 を有効にできます。

アップグレード エラーのトラブルシューティング

5

アップグレードで発生する問題をトラブルシューティングするには、エラー ログを調べます。VMware Identity Manager が起動しない場合は、スナップショットにロールバックして前のインスタンスに戻ることができます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [アップグレード エラー ログの確認 \(P. 21\)](#)
- [VMware Identity Manager のスナップショットへのロールバック \(P. 21\)](#)
- [ログ ファイル バンドルの収集 \(P. 22\)](#)

アップグレード エラー ログの確認

アップグレード時に発生したエラーを解決するには、エラー ログを確認します。アップグレード ログ ファイルは、`/opt/vmware/var/log` ディレクトリ内にあります。

問題

アップグレードの終了後に、VMware Identity Manager が起動せず、エラー ログにエラーが表示される。

原因

アップグレード時にエラーが発生しました。

解決方法

- 1 VMware Identity Manager 仮想アプライアンスにログインします。
- 2 `/opt/vmware/var/log` にあるディレクトリに移動します。
- 3 `update.log` ファイルを開いてエラー メッセージを調べます。
- 4 エラーを解決して、もう一度アップグレード コマンドを実行します。アップグレード コマンドは、停止した場所から再開します。

注意 または、スナップショットにロールバックしてもう一度アップグレードを実行します。

VMware Identity Manager のスナップショットへのロールバック

VMware Identity Manager がアップグレード後に適切に起動しない場合は、前のインスタンスにロールバックできます。

問題

VMware Identity Manager がアップグレード後に適切に起動しない。アップグレード エラー ログを確認してもう一度アップグレード コマンドを実行したが、問題が解決しない。

原因

アップグレード プロセス中にエラーが発生しました。

解決方法

- ◆ 必要に応じて、元の VMware Identity Manager インスタンスと外部データベースのバックアップとして取得したいずれかのスナップショットにロールバックします。詳細については、vSphere のドキュメントを参照してください。

ログ ファイル バンドルの収集

ログ ファイルのバンドルを収集できます。バンドルは VMware Identity Manager アプライアンスの構成ページから取得します。

次のログ ファイルがバンドルに収集されます。

表 5-1. ログ ファイル

コンポーネント	ログ ファイルの場所	説明
Apache Tomcat ログ (catalina.log)	/opt/vmware/horizon/workspace/logs/catalina.log	Apache Tomcat は他のログ ファイルに記録されないメッセージを記録します。
Configurator ログ (configurator.log)	/opt/vmware/horizon/workspace/logs/configurator.log	Configurator が REST クライアントと Web インターフェイスから受け取る要求。
コネクタ ログ (connector.log)	/opt/vmware/horizon/workspace/logs/connector.log	Web インターフェイスから受信された各要求の記録。各ログ エントリには要求 URL、タイムスタンプ、例外が含まれています。同期アクションは記録されません。
サービス ログ (horizon.log)	/opt/vmware/horizon/workspace/logs/horizon.log	サービス ログは、資格、ユーザー、およびグループなどに関連して VMware Identity Manager アプライアンスで実行されるアクティビティを記録します。
統合カタログ ログ (greenbox_web.log)	/opt/vmware/horizon/workspace/logs/greenbox_web.log	統合カタログに関連するアクティビティを記録します。

手順

- 1 VMware Identity Manager アプライアンスの構成ページ (<https://<identitymanagerURL>:8443/cfg/logs>) にログインします。
- 2 [ログバンドルの準備] をクリックします。
- 3 バンドルをダウンロードします。

RabbitMQ の問題のトラブルシューティング

6

RabbitMQ サービスは、アップグレード後に機能しなくなります。

問題

RabbitMQ は、アップグレードされたクラスタ環境では正しく応答しません。

解決方法

RabbitMQ ノードは起動したときと逆の順序で停止する必要があります。これによってマスター ノードの順序が維持されます。起動順序を決めるには、各サーバの `/db/rabbitmq/data/*/nodes_running_at_shutdown` ファイルを確認します。まず、すべてのノードをリストするノードをシャットダウンします。たとえば、`node1`、`node2`、`node3` の3つのノードを起動した場合、ノード3の `nodes_running_at_shutdown` ファイルには `node1,node2,node3` とリストされます。ノード2には `node1,node2` とリストします。ノード1には `node1` とリストします。3、2、1の順にシャットダウンします。

手順

- 1 クラスタの各 VMware Identity Manager アプライアンスの RabbitMQ ノードを停止します。
`rabbitmqctl stop` と入力します。
先に進む前に、クラスタの各 RabbitMQ ノードに対してこれを実行します。
- 2 最後に停止したノード上で RabbitMQ ノードを起動します。
`rabbitmq-server -detached` と入力します。
- 3 ノードが起動したことを確認します。
`rabbitmqctl status` と入力します。
- 4 手順2および3に従って、クラスタの他の RabbitMQ ノードを正しい順序で起動します。
- 5 RabbitMQ がクラスタから切断されていることを確認します。
`rabbitmqctl cluster_status` と入力します。
- 6 VMware Identity Manager サービスを再起動します。
`service horizon-workspace restart` と入力します。

インデックス

H

HTTP プロキシ 12

R

rabbitMQ 8

RabbitMQ、トラブルシューティング 23

あ

新しいポータルของผู้ใช้ 인터フェイス 19

アップグレード 7

アップグレード エラー 21

え

エラー 21

エラー ログ 21

お

オフライン アップグレード 15

オフライン アップグレードの前提条件 15

オンライン アップグレード 11, 12

オンライン アップグレードの前提条件 11

オンラインでアップグレード可能かどうかをチェック 12

く

クラスタ、アップグレード 8

す

スナップショット 21

スナップショットへのロールバック 21

せ

設定 19

た

対象者 5

と

トラブルシューティング 21

ふ

プロキシ サーバ 12

よ

用語集 5

ろ

ローカルの Web サーバ 16

ローカルの Web サーバを参照 16

ローカルの Web サーバの準備 15

ログ バンドル 22

ログ ファイルの収集 22

